

山中だより

山中 してもらう
キャッチ させられる人から
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第22号

発行 令和元年12月23日 校長 交久瀬 善浩

◆◆2学期の終わり、そして新年のスタートを迎えるにあたって◆◆

2学期の終業式を迎えました。人生に一度しかない中学1年・2年・3年の2学期、それぞれの4か月という時間、あなたにとってどんなものだったでしょうか？

人は、漫然と「自分の命はまだまだ続く、今日やらなくても明日やったらええやん」と思ってしまいがちです。「自分の命は明日もある。来年もある。何年もある。」とあってしまっています。私もそんな一人です。明日もあると安穩と毎日を過ごしている一人です。しかし、もし「あなたは今日しか命がない」と言われれば、あなたは今日という日をどう生きますか？何をするか少し想像してみてください。



人は自分の命をどのように失くしてしまうのか。みなさんもニュースなどで知っていると思いますが、アフガニスタンで、NGO「ペシャワール会」の現地代表として35年間も活動を続けられた医師の中村哲氏が殺害されました。当然、中村氏は非常に危険な地域なので、常に命を危険にさらさねば活動できないし、いつ命を失くすかわからないという覚悟はされていたと思います。だからこそ、一日一日を大切に精力的に、自分の命を懸けて毎日の活動をされていたのだと思います。中村 哲氏がどんな気持ちで、どんな意志力をもって日々を過ごされていたのか想像してみてください。それも自分のためではなく他人のために命を懸けて日々を活動する意志力とはどんなものなのでしょう。そして、中村 哲氏と同じように命懸けで世界の紛争地帯や極度の貧困地帯でその地域の人を助ける活動をしている方々が、世界にはたくさんいます。冬休み中は時間もあると思いますから、そういった方々、そして活動について等々を調べて、中村 哲氏の気持ちに思いを馳せてみましょう。



そしてあなたは、限られたあなたの生きている時間をどう生きたいのか？、何を成し遂げたいのか？、今日の日、明日の日をどう生きるのか？を自分自身に問うてみてください。そして、令和2年を自分にとってどんな年にするのかを考え、目標を決めてください。年間の目標が決まったら、その目標達成のために、1月は何をする、2月は、というように月ごとの達成目標を決め、さらに細かく今週は？、今日は？というように考えていきましょう。そうすることによって、あなたの目標達成は近くなるはずです。

自分は生きている時間をどう生き、何を成し遂げるか、それを常に追求し、あなた自身で、あなたの命を意義あるものにしていきましょう。

「自分の命を、自分の力そして自分の意志で生きていくこと。」それが大切なのだと思います。

《参考：中村 哲氏の言葉》

・我々の歩みが人々と共にある「氷河の流れ」であることを、あえて願うものである。その歩みは静止しているかの如くのろいが、満身に冰雪を蓄え固めて、巨大な山々を確実に削り降ろしてゆく膨大なエネルギーの塊である。我々はあらゆる立場を超えて存在する人間の良心を集めて氷河となし、騒々しく現れては地表に消える小川を尻目に、確実に困難を打ち砕き、かつ何かを築いてゆく者でありたいと、心底願っている。

[ペシャワール会ホームページ：「氷河の流れのように」(中村 哲)より抜粋]

◆◆1年生の小池 奏実さんが「中学生の調べ学習コンクールで優秀賞を受賞！！◆◆

12月15日（日）、枚方市立中央図書館主催の「中学生の調べ学習コンクール」の表彰式があり、本校1年生の小池 奏実さんが作品「スペイン」で優秀賞を受賞しました。おめでとうございます！！

学校の授業は、基本的に学習する内容が定められており、生徒が自由に学習する内容を自由な学習スタイルで学習していくということではできません。つまり通常の教科教育の授業の中では、生徒が自発的・主体的、そして創造的な学習を行うことが困難です。そこで総合学習という教科ができ、調べ学習の取り組みも総合学習の方法の一つとして取り入れられました。



中央図書館主催の調べ学習コンクールは、テーマもすべて生徒が決まられますので、次々年度からの新学習指導要領で強く求められている主体的で深い学びに教科教育よりも高い効果が見込まれる上、調べることにとどまらず、課題提示と解決策等を模索し提案することを組み合わせると、創造的な学習に繋がることから、とても重要な取り組みと考えています。近い将来は、教科教育は脇役で、調べ学習的要素を含んだ総合学習の学習スタイルが、学校教育のメインになっているかもしれません。そんな未来につながるコンクールで、優秀賞を獲得できたことは素晴らしいです。小池さん、本当におめでとう！

◆◆困難に立ち向かうことの勧め◆◆

幼少の頃から親に意図的に困難をぶつけてもらい、しんどい思いを経験し、それを乗り越えてきた人は、自分で考える習慣が付き、乗り越えた満足感を得ます。困難なことに立ち向かうしなやかな心の強さと柔軟な思考力や発想力を身につけます。それは、人が生きていく上で、とても強い力となります。

例えば、二人の中学生がいたとします。両者が5という高さのハードルに出会いそれを回避できないとします。そのとき、初めてハードルに出会った一人は、おそらくいきなりの5というハードルを越えていくことはできないでしょう。しかし、これまでに1～4という小さなハードルをいくつも越えてきた人は、さしたる苦労もなく越えていくでしょう。

大人になってから出会うハードルは、もっと高いものになります。若いときにいくつものハードルを越えてきた人は、簡単にそのハードルを越えて行きます。しかし大人になって初めてハードルに出会った人は、まず越えることはできません。越えられたとしても、精神がズタズタになるほどの苦労をしてやっと越える状況でしょう。何故なら、両者とも今までに同じようにハードルに出会っているはずなのに、後者は親がそのハードルを前もって取り除いたり、横で補助したりアドバイスしたりして越え易くしてきたために、己一人の力でハードルを越えた経験を積むことができなかつたためです。その状態で社会に出て一人でハードルを越えていかねばならなくなったとき、親に補助してもらったことが多い人ほど、越えられない確立が高くなります。

大人になって社会に出て、一つ目のハードルを越えられなかったらどうなりますか。周りが越えていく中で自分だけが越えられなかったら、あなたならどうしますか。会社に行く勇気が湧きますか。家に閉じこもり、追い込まれてうつ状態になったり、最悪、生への希望を失くしたりしないでしょうか。

最近、若者の引きこもりやニートが増えている状況、就職した若者が少し嫌なことがあるだけですぐに仕事を止めてしまう状況が、このことと関連しているような気がして仕方ありません。

そうならないように、中学生のあなたは自分でどうすればいいのか判断できるのだから、親に助けをもらうのではなく、自分から進んで、一人の力あるいは同じ年の仲間とともに、困難なことやしんどいことに積極的に主体的に立ち向かい、取組み、乗り越え、将来自分の力で生きていくだけの力をつけていきましょう。表面の記事と合わせて考え、今年目標の参考にしてください。